

彙 報

会 長 柴 谷 方 良

平成9年度第3回常任委員会

日 時：平成9年9月6日（土）午後1時～8時

場 所：神戸大学文学部会議室

出席者：柴谷方良（会長）、窪園晴夫（事務局長）、井出祥子、影山太郎、田窪行則、長嶋善郎、西光義弘、原田かつ子、吉田和彦

オブザーバー：藤井義久、松瀬育子（事務局長補佐）

報告事項

- (1) 平成8年度、9年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の額の確定について、兩年とも例年通り60万円である旨、文部省国際学術局長から連絡があった。
- (2) 日本学術会議会員推薦管理会より、第17期日本学術会議会員として推薦すべき者について報告があった。日本言語学会からの被推薦者はなかったが、語学・文学部門で関連する被推薦者として、国語学会からの北原保雄氏（日本言語学会会員）がいる。
- (3) 日本学術会議、語学・文学研究連絡委員会委員候補者の選出について、時間の関係上、常任委員会による選出という形式で田村すず子氏を選出し、同候補者として推薦した。この件は委員会で承認を受ける必要がある。
- (4) 平成10年度学術審議会科学研究費分科会専門委員候補者の推薦依頼があり、日本言語学会は昨年度からの継続候補者を推薦した。同委員は、任期2年あり、本人の辞退がない限り、自動的に継続される。
- (5) 『言語学用語集』については、校閲及び日本学術振興会との出版契約も終了し、本年度中に刊行される予定である。販売は丸善を通し、価格は

4,200円（税別）としている。

- (6) 第114回大会の反省については、アンケートの結果を窪田 事務局長が総括し、細部は大会関係作業部会の懸案事項において、審議されることとした。

審議事項

- (1) 第115回大会（平成9年度秋季大会）について
10月11日、12日に京都大学で開催予定の大会について、講演者、研究発表者などの大会の詳細を決め、プログラムを決定した。研究発表については、応募総数76件から55件を採択した。
- (2) 第116回大会（平成10年度春季大会）について
平成10年に慶應義塾大学で行う。子細は次回以降の常任委員会で議論する。
- (3) 各作業部会の懸案事項について
- (A) 大会関係作業部会
- ・研究発表を希望する者は、申し込みの時点で会員でなければならないとすべきである。
 - ・他学会への二重投稿を禁止するべきである。
 - ・要旨は郵送で31日必着とするべきである。
- (B) 国際関係作業部会
- 国際化の一環として内外を問わず名誉会員に相応しい人物を選ぶための推薦委員会を作り、名誉会員を選ぶべきである。
- (C) 夏期講習作業部会
- 1999年度開催の可能性を探るため、今年度中にアンケートを実施する。
- (4) その他
- (A) 総会の開催日を土曜日の講演会の直後にして会員の参加を促す。
- (B) 積立金の使途を項目別に分類して、積極的に学会を運営する。また「絶滅の危機に瀕した言語」小委員会に予算を特別に作る。
- (C) 日本言語学会のホームページを作り、インターネットで海外からもア

クセスできるようにする可能性について検討した。

平成9年度第2回委員会

日 時：平成9年10月11日（土）午前10時～午後1時

場 所：京都大学総合博物館3階講演室

出席者：柴谷方良（会長）、窪園晴夫（事務局長）、池上二良、井出祥子、上野善道、荻野綱男、影山太郎、梶 茂樹、菊地康人、金水 敏、久保智之、坂本 勉、坂本比奈子、佐藤昭裕、清水克正、下宮忠雄、庄垣内正弘、田窪行則、竹内和夫、田村すず子、辻星児、津曲敏郎、徳川宗賢、長嶋善郎、西田龍雄、西光義弘、林 徹、早田輝洋、原口庄輔、原田かつ子、松村一登、松本克己、宮岡伯人、藪司郎、山梨正明、油谷幸利、吉田和彦、吉田 豊

委任状：27名

オブザーバー：角田太作（会計監査委員）、湯川恭敏（会計監査委員）、奈良毅（危機言語小委員会委員長）、西山祐司（第116回大会運営委員長）、藤井義久（事務局長補佐）、松瀬育子（事務局長補佐）

報告事項

議事と報告に先立って大会開催校を代表して宮岡伯人氏より挨拶があった。

(1) 会長より平成9年度第3回常任委員会について報告があった。具体的な内容は次の通りである。

(A) 第115回大会研究発表の第2日目、E会場の午後の部前半の司会を長野泰彦氏から辻星児氏に交代する。

(B) 第116回大会（平成10年度春季大会）については、平成10年6月20日（土）、21日（日）に慶應義塾大学で行う。詳細は次回以降の常任委員会で検討する。

(C) 第117回大会（平成10年度秋季大会）は、平成10年10月31日（土）、11月1日（日）に山口大学で行う。研究発表の締め切りが8月31日のままであると審査に余裕がなくなるため、大会の開催を11月の初めに移行する。

- (D) 総会を大会2日目の昼休みではなく、1日目の懇親会の前に移行する。
- (E) 常任委員の一人である長嶋善郎氏が1998年4月から1年間在外研修に出ることになったため、その間の代理を荻野綱男氏が務める。
- (2) 平成8年度、9年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の額の確定について、両年とも例年通り60万円である旨、文部省国際学術局長から連絡があった。
- (3) 日本学術会議、語学・文学研究連絡委員会委員候補者の選出について、時間の関係から常任委員会による選出という形式で田村すず子氏を選出し、同候補者として推薦した旨報告があり、了承した（任期は平成9年10月より3年間）。田村氏より連絡委員会について報告があった。
- (4) 下宮忠雄氏から7月20日～25日にパリで開かれた国際言語学者会議の報告がなされた [本誌報告書参照]。
- (5) 平成10年度学術審議会科学研究費分科会専門委員候補者の推薦依頼があり、日本言語学会は昨年度からの継続候補者を推薦した。
- (6) 危機言語小委員会について委員長の奈良毅氏から以下の報告・要望があった。
 - (A) 正式名称を「危機言語小委員会」とする。
 - (B) メンバーの拡充を図る。
 - (C) 予算の増加を図る。
 - (D) 1999年に早稲田大学で開催される第12回国際応用言語学会に、日本・アジア・太平洋特定領域研究として参加の可能性を検討する。
 - (E) 文部省科学研究費補助金特定領域研究への申請を図る。
 - (F) 『言語研究』へ活動報告を掲載する。
- (7) 『言語学用語集』については、校閲及び日本学術振興会との出版契約も終了し、本年度中に刊行される予定である。販売は丸善を通し、価格は4,200円（税別）としている。

審議事項

- (1) 「研究発表に関する規定」の改訂について会長から趣旨の説明があり、

審議の上、別記の案を承認した。

(2) 各作業部会の懸案事項について、各部会座長より説明があり、各項目が了承された。

(A) 国際関係部会 (座長：井出祥子)

- ・日本語を母語としない会員を対象になされたアンケート調査の結果が報告された。
- ・1999年に早稲田大学で開催される第12回応用言語学会世界大会に言語学会としてシンポジウム等の企画を図る方向で検討を進める。

(B) 夏期講習会部会 (座長：西光義弘)

- (a) 日本言語学会主催の夏期講座実施に向けて、学会員や他の関連学会の会員に対してアンケートを実施すること。
- (b) 専門の検討小委員会を設置する。人選については常任委員会で決め、次回の委員会で事後承認する。

(3) 積立金の用途別項目化について会長より趣旨説明があり、(a) 夏期講座、(b) 危機言語小委員会、(c) Pacific Rim Linguistics Institute (2001年)、(d) 記念大会などの項目に細分化し、活発運用することを承認した。

第115回大会

期 日 1997年10月11日(土)～12日(日)

会 場 京都大学

第1日(10月11日)

公開講演会 午後1時30分～5時30分

開会の辞

開催校挨拶

講 演

オーストロネシア語族の周縁で何が起こったか 崎 山 理

リレー講演 言語学と文献研究

言語の先史の復元—ヒッタイト語歴史文法の構築にむけて— 吉 田 和 彦

「表音文字」の背後にあるもの 熊 本 裕

—中央アジアブラーフミーの場合—

文字と言語音の再構—ウイグル文字による漢語音の再構— 庄垣内 正弘

会員懇親会 午後6時～8時

第2日(10月12日)

研究発表 午前9時30分～12時20分

◦A 会 場

司会 上野 善道

(A 1) 9:30～ 日本語の複合形容詞の連濁現象 谷 脇 康 子

(A 2) 10:00～ 助詞「モ」における 布 村 依 子

「方言—共通アクセント」併用の文法的機能

(A 3) 10:50～ The Experimental Study on Child 加 藤 尚 美

Language Acquisition of WH-Questions

(A 4) 11:20～ Evidence for an Experience-based Theory 菊 地 敦 子

of Meaning Found in the Process of

Translation

(A 5) 11:50～ 「自分」の解釈—幼児と大人の違い 吉 村 紀 子

◦B 会場

司会 定延 利之

(B 1) 9:30~ 日本語受動文の被害性について 田中裕司

(B 2) 10:00~ 日本語の無助詞 木下恭子

司会 田野村忠温

(B 3) 10:50~ 水海道方言の対格 佐々木 冠

—有生対格と無生対格の統語論—

(B 4) 11:20~ 徳島方言における「～ヨル」と「～トル」の 島田 武
意味機能(B 5) 11:50~ 「コレハ私ノダ。」における「ノ」の性質 藤田 尚子
—北陸方言と共通語の対照方言学的考察—

◦C 会場

司会 熊本 裕

(C 1) 9:30~ 韻書の構成法から見た西夏語の等韻について 荒川 慎太郎

(C 2) 10:00~ ホメーロス・ギリシア語における 吉田 育馬
印欧祖語の Caland's system とその解析

司会 武内 紹人

(C 3) 10:50~ 現代ヘブライ語における語根の内部構造 佐々木 嗣也
について(C 4) 11:20~ ポー・カレン語の動詞連続に見られる 加藤 昌彦
特徴について

(C 5) 11:50~ ムンダ語の経験的動詞構文について 長田 俊樹

◦D 会場

司会 山梨 正明

(D 1) 9:30~ うそらしいうそとは何か 西村 史子
—日本人とオーストラリア人の
アンケートデータを比較して—(D 2) 10:00~ 「道順説明」における空間の参照フレーム 村上 恵
の折衝と確定過程

司会 真田 信治

- (D 3) 10:50～ ポライトネスにおけるフェミニズム 齋 延 美
 言語学の再考—日本と韓国の大学生の
 依頼談話における丁寧度の男女差の
 比較を通じて—
- (D 4) 11:20～ 「ほめ」への返答と「礼儀正しさ」の基準 野村 美穂子
- (D 5) 11:50～ 人間関係管理からみた優先応答体系 梶 本 総 子

◦E 会場

司会 藪 司郎

- (E 1) 9:30～ フィンランド語の名詞修飾における 千葉 庄 寿
 出格と分格の用法
- (E 2) 10:00～ チュクチ語の出名動詞を派生する接辞に 呉 人 徳 司
 ついて
 一対応する自立動詞との比較をつうじて—

司会 平野 尊識

- (E 3) 10:50～ 現代アラビア語のいわゆる“not~until” 近 藤 智 子
 構文について
- (E 4) 11:20～ パンティック語の小辞 -te が動詞の 内 海 敦 子
 アスペクトに与える影響について
- (E 5) 11:50～ 能格性と節の構造：カパンパンガン語 北 野 浩 章
 (フィリピン) のデータから

研究発表 午後1時10分～4時30分

◦A 会場

司会 藤田 耕司

- (A 6) 1:10～ Merge (Comp, INFL) の可能性 西 前 明
- (A 7) 1:40～ Two Different Positions of *There* 田 中 江 扶
- (A 8) 2:10～ Another Type of “Raising” 中 村 政 徳

司会 林 博司

- (A 9) 3:00～ 語彙文法による日本語の介在性構文の分析 平 川 八 尋

(A10) 3:30～ フランス語と英語の代名詞と
Do-Support について 島田雅晴

(A11) 4:00～ 主要部内在型関係節と「の」の参照点機能 尾谷昌則

◦B 会場

司会 森山 卓郎

(B 6) 1:10～ 評価的モダリティと認識的モダリティの
連続性 山田陽子

(B 7) 1:40～ Why does Japanese Allow Truncated
Relative Clauses? 本田謙介

(B 8) 2:10～ 日本語の名詞句省略における非対称性
—複文の単文化との関わり— 早川幸子

司会 油谷 幸利

(B 9) 3:00～ 聖書における韓国語と日本語の比較研究 申 恵 璟
—呼称とスピーチレベルの使用法を中心に—

(B10) 3:30～ 韓日語比較；使役他動詞構文 鄭 聖 汝
—パラメータと統語的具現化について—

(B11) 4:00～ 日本語と朝鮮語における状態形と非状態形
の選択について 井上 優
生越直樹

◦C 会場

司会 川越 いつえ

(C 6) 1:10～ 英語における子音連続と音節構造 山本 武 史

(C 7) 1:40～ ユカギール語における名詞の複数形
接尾辞と音節構造の関係 長崎 郁

(C 8) 2:10～ 日本語東京方言話者におけるアクセント
の揺れと音節構造 立石 浩 一

司会 松森 晶子

(C 9) 3:00～ キナウル語の母音体系について 高橋 慶 治

(C10) 3:30～ チェコ語男性名詞のアクセント法 佐藤 規 祥

(C11) 4:00～ 2つのソデベレ語
—動詞アクセントを中心に— 湯川 恭 敏

◦D 会場

司会 中川 正之

(D 6) 1:10~ Subcategorization and Semantic Daniela Căluianu
Classification of Adjectives Expressing
Emotions

(D 7) 1:40~ 中国語に置けるアスペクト役割と文中の 伊藤 さとみ
位置の関係について

(D 8) 2:10~ 現代日本語の「変化動詞」のアスペクト 小西 正人
分類における問題点

司会 杉本 孝司

(D 9) 3:00~ Narrative Dialogue Forms in English: 崎田 智子
Cognition and Self Identity

(D10) 3:30~ BE TO の文法 菅山 謙正

(D11) 4:00~ 事実的述語は列挙できるか : 神尾 昭雄
その開放類的性格について

◦E 会場

司会 辻 星児

(E 6) 1:10~ アイヌ語静内方言の疑問の副助詞 奥田 統己

(E 7) 1:40~ バスク語アスぺイティア方言の助動詞 吉田 浩美
da/die, debe/ditube による「非人称」

(E 8) 2:10~ 現代チベット語の助動詞 yon の意味 星 泉
一経験想起, 聞き手指向の意志

司会 角田 太作

(E 9) 3:00~ コモックス語(セイリッシュ語族)における 渡辺 己
「複数性」について

(E10) 3:30~ ハイダ語スキドゲイト方言の手段接頭辞に 堀 博文
ついて

(E11) 4:00~ 古アジア諸語の複合構造の類型 金子 亨

◇ 本学会評議員長谷川松治氏は、平成10年1月28日に死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇ 本誌は、文部省平成9年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。